

令和3年度学校自己評価システムシート (県立ふじみ野高等学校)

目指す学校像	学習とスポーツ・文化活動を両立し、地域に元気・感動・夢を発信する学校
--------	------------------------------------

重点目標	1 基礎学力の向上と授業の充実 2 基本的生活習慣と規範意識の質的向上 3 キャリア教育の充実と進路実績の向上 4 部活動・生徒会活動・ボランティア活動の充実と発展
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学校自己評価							
年度目標				年度評価(月日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	○現状 95.1%の生徒が授業に意欲的に取り組んでおり、88.0%の生徒が、授業内容を理解している。家庭学習時間を1~2時間、2時間以上確保している生徒は、考査前では71.8%であるが、普段では16.5%である。 ○課題 ・ICTを活用した授業改善を継続する。 ・全教員の共通理解の下進路実現を目指し、家庭学習習慣の定着を図り、基礎学力向上に向け授業改善に取り組む。 ・授業確保に努める。 ・学校行事の精選を推進する。	主体的に学習に取り組む基礎学力の向上が図られる授業改善の推進。	①ICT機器の活用、アクティブラーニング等の手法を取り入れた授業改善、研究協議を実施し、授業力を向上させる。 ②学習アプリの活用を含め、家庭学習習慣の定着を進める。 ③3年間を見通して英検IBA等の各種検定に全校体制で取り組む。 ④行事日程を精選し、可能な限り授業を確保する。	①タブレットやプロジェクター等のICT機器の活用状況 ①アクティブラーニング研究授業や教科研究授業の実施状況 ②学習アプリの活用状況 ②平時の家庭学習時間0時間の生徒の割合 ③各種検定の実施状況と受検者数及び合格状況 ④行事日程の工夫 ④授業カウント表の作成、チャイムトゥチャイム着席の割合			
2	○現状 出席状況、身だしなみ、清掃活動、自転車通学者の交通マナー等の基本的生活習慣等は良好であるが、一部の清掃区域については改善が必要である。 ○課題 ・生徒の規範意識を更に高めるため、継続して生活指導を行っていく必要がある。 ・コロナ禍で生徒の不安が高まっているため、生徒との面談機会を増やし、相談体制を強化する必要がある。	主体的な規範意識の醸成と教育相談体制の充実。	①生活指導、交通安全マナーアップ、校内環境美化を徹底する。 ②年間を通じて遅刻指導を継続し、特定期間を重点的に指導する。 ③二者面談、三者面談の実施、スクールカウンセラーの活用等、生徒の悩み、不安を解消するため組織的に教育相談を実施する。	①通学指導を年8回実施 ①交通安全教室及び自転車点検の実施 ①校内清掃状況 ②出席率99%以上、皆勤者数60%以上 ③学校評価アンケートの分析 ③SCの相談件数、個人面談の実施状況			
3	○現状 生徒一人一人の進路希望に応じた進路指導が行われ、3年間を見通した進路指導により生徒の希望している進路実現ができています。 ○課題 ・模擬テスト等の実施の効果を高めるため、継続して職員研修会を実施する必要がある。 ・学校行事を精選するとともに、進学補講を組織的に進め、学力向上に努めていく必要がある。 ・進路行事(学年別進路説明会、模擬面接会等)を更に充実させる。	進路意識の向上と高い志を育み第一志望を実現する。	①上級学校への進路実現に向けた補講や補習、対策講座を組織的に行う。 ②3年間を見通して各種ガイダンス、模擬テスト等を実施するとともにその結果を踏まえた研修会を実施する。 ③保護者対象の進路説明会、PTA参加の進学・就職模擬面接会等を実施し、保護者・生徒の進路意識を高める。 ④進路意識を高めるための面談を実施する。	①進学補講、補習、対策講座の参加者状況 ②学校斡旋就職率100% ②進路関係情報の提供回数 ②模擬テスト等の振り返り状況 ③保護者アンケートの分析 ③模擬面接等の実施状況 ④進学や就職に向けた面談の実施状況			
4	○現状 ・大会規模の変更はあったが多くの部活動が入賞を果たしている。 ・コロナ禍の中で、従来通りの地域との交流や連携・ボランティア活動が実施しにくい状況がある。 ○課題 ・継続して各部活動の充実を図る。 ・地域連携・教育連携の在り方を検討し、工夫・改善する必要がある。 ・学校からの情報発信を地方放送局を活用するなど更に積極的に行う必要がある。	目標にチャレンジする強い意志と支え合う豊かな心の育成と本校の魅力の情報発信。	①外部指導者を活用するとともに、科学的、効果的に練習を行い、上位大会に出場させる。 ②交流、ボランティア等、地域における事業の在り方を検討し、生徒・教員を積極的に派遣する。 ③学校説明会・中学校訪問・塾訪問、視察等の受け入れについて検討し、工夫改善し実施する。 ④Google Classroom、生徒の活動のホームページ掲載、一斉メール配信システム等を有効活用する。 ⑤地方放送局を活用した広報活動を継続して実施する。	①部活動実績 ②地域交流等の派遣回数と参加生徒数 ③中学校訪問・塾訪問・視察等の受け入れ実施状況 ④Google Classroomの活用状況、ホームページの更新回数、メール配信の回数 ⑤地方放送局を活用した広報活動状況			

学校関係者評価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等